

自己評価結果

1. おだ認定こども園 の教育目標

\*豊かな生活体験を通して自我の育ちを助長し「生きる力の基礎」となる「心情」「意欲」「態度」を培う

\*自己肯定感の持てる子ども

「元気でたくましい子」 「自分や人を大切に思える子」 「感性豊かな子」

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことに必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の各学年の具体的な目標や計画

\*「健康でたくましい子」 ～ けがのない体力作り ～

- ・発達年齢に応じた身のこなしができるように、様々な遊びを通して体を動かすことが好きになり、健康を維持し自信を持って生活する力を育む
- ・様々な体験の中で失敗や成功を繰り返しながら、気持ちを立て直す力・もう一度やってみようとする意欲
- ・いきいきと自己表出でき、ありのままの自分を受けいれてもらえる安心感を通して人とコミュニケーションをとる楽しさを感じ、生活を楽しめる力を身につける

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	内容	結果	理由
職員の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保育者が子どもの行動・姿からその興味関心を理解し、学びの機会を捉えて、支援できるようにする。</li> <li>○保育者自身が幼児理解を深め、同僚性を高められるように、外部の講師を招いて研究保育をし、意見交換を行い、互いの保育を高め合える同僚性の築きにつながるようにする。</li> </ul>	B	○これまで、カリキュラム会議等で子どもの姿を話す機会を多く持っていたが、行事や活動計画に従って保育を進めようとする意識も強く、日常生活の中から子どもの育ちを見取る保育が十分でなかったところがあった。研修を重ねながら、子どもの興味関心を引き出しながら保育を行う視点ができつつある。
<ul style="list-style-type: none"> <li>○園児の健康に留意し、運動機能を育て、怪我をしにくい元気な子どもの育成</li> <li>○積極的に運動遊びに参加し、体を巧みに動かせることものの育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年で「健康でたくましい子」の育成を意識し、年齢に応じた運動遊びの展開をおこなうようにする。</li> <li>○様々な運動に挑戦し、達成感を得て、さらに「やってみよう」とする意欲が育つようにする。</li> <li>○体を動かすことで体幹を鍛え、転びにくい・転んでも手で体を支えられる・怪我をしにくい体を作るようにする。</li> </ul>	C	○年齢によって、取り組みに差がでていた。運動や外遊びに対して、抵抗のある子どもが高学年になるに従って偏りがみられ、年齢の小さいうちから体を動かすことの楽しさを体験できることが大切であることがわかった。今後も継続的に取り組み、積極的に体を動かすことが好きになる子どもの育成を目指したい。
保護者・地域に開かれた園としての取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保育参観や行事等に積極的に参加を促し、参加しやすい日程や2号認定保護者の為に夕方の懇談会を開催していく。</li> <li>○遊歩道の花壇を『おだキッズアダプト会』として、今年度から園の職員と子ども達で管理し、地域の人達に対して喜んでもらえるような花壇の整備を教育活動の中で子ども達と一緒にやっていく。</li> </ul>	A	○保育参観は、各学年参加率も良く、保護者の理解・協力が得られていた。普段あまり園に来られない2号認定の保護者へも積極的に声を掛け、コミュニケーションを図る努力を各担任もできていた。一方で保育の内容等をもっと身近に感じてもらえるように、視覚化して情報を発信する事ができると、更に充実できるのではないかと、検討する。
安全対策の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>○安全・安心を第一に考えて、環境整備を進めるとともに、日常生活の遊びの中で、子ども自身が安全に気を付けて行動できるような指導を積み重ねる。</li> <li>○地下通路の出入り口の施錠について、保護者からのご意見もあり、24時間施錠してより安全に過ごせるようにする。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○広場利用の入り口は電子錠ではないため、出入りが自由になっていたが防犯のため、保育部の玄関の階段部分をスロープにする改修工事を行い、日中も施錠を行う事で園の全ての門の安全対策を行うことができた。</li> <li>○園庭の固定遊具の木材の状況や死角になりやすい場所等の把握を行い、安全に遊べるように職員で声を掛け合っていく。</li> </ul>

4. こども園の具体的な目標や計画の総合的な評価結果と今後の課題

結果	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○様々な取り組みを行ってきているが、行事中心に活動を行っているため、子どもの様子から指導内容へ展開していくところが教師中心に活動を誘導している場面も多く見られ、運動遊び等も主体的な活動として、園児の意識に浸透していなかった。保育士の質の向上のために、更に同僚性を高めていく取り組みを強化していきたい。</li> <li>○認定こども園に移行後の第三者評価では多様な保護者の意見や思いを知る機会となった。その結果を踏まえ改善できる取組と、更に園の方針を理解していただくための方策を全職員と思考していきたい。</li> </ul>

◎「3. 4.」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが成果が充分ではない
D	取り組みが不十分である